辻遺跡発掘調査地元説明会資料

令和2年（2020年）10月4日（日）／公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

遺跡と調査の概要

遺跡の概要　辻遺跡は、栗東市出庭・辻を中心に広がる古墳時代の大集落跡として知られています。これまでの調査では、玉作りなどの手工業工房跡をはじめとして、多数の遺構がみつかっています。韓式系土器（かんしきけいどき）とよばれる韓半島系の土器も出土しており、韓半島からの渡来人と関係が深い遺跡です。

調査の概要　公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県文化スポーツ部文化財保護課からの依頼を受け、国土交通省近畿地方整備局滋賀国道事務所が工事を計画している一般国道8号野洲栗東バイパス建設に伴う発掘調査を平成30年度から実施しており、現在も調査継続中です。

昨年度の調査では、古墳時代前期から中期(約1,700年～1,600年前)の竪穴建物が25棟以上みつかりました。なかでも5世紀前半の竪穴建物群からは、鍛冶（かじ）関係の炉跡を検出し、それに伴って鉄滓（てっさい）等の鍛冶関係遺物が出土したほか、ガラス小玉鋳型や韓式系土器といった渡来系技術によって作られた様々な遺物が出土しました。このことから、5世紀前半頃には、今回の調査地周辺に、渡来人の技術を用いた鍛冶やガラス小玉の製作などを行う工房が存在したことがわかりました。

今年度は、遺跡の範囲の南側部分の調査を4月から実施しています。現在も調査は継続しておりますが、現時点での調査成果についてお知らせいたします。

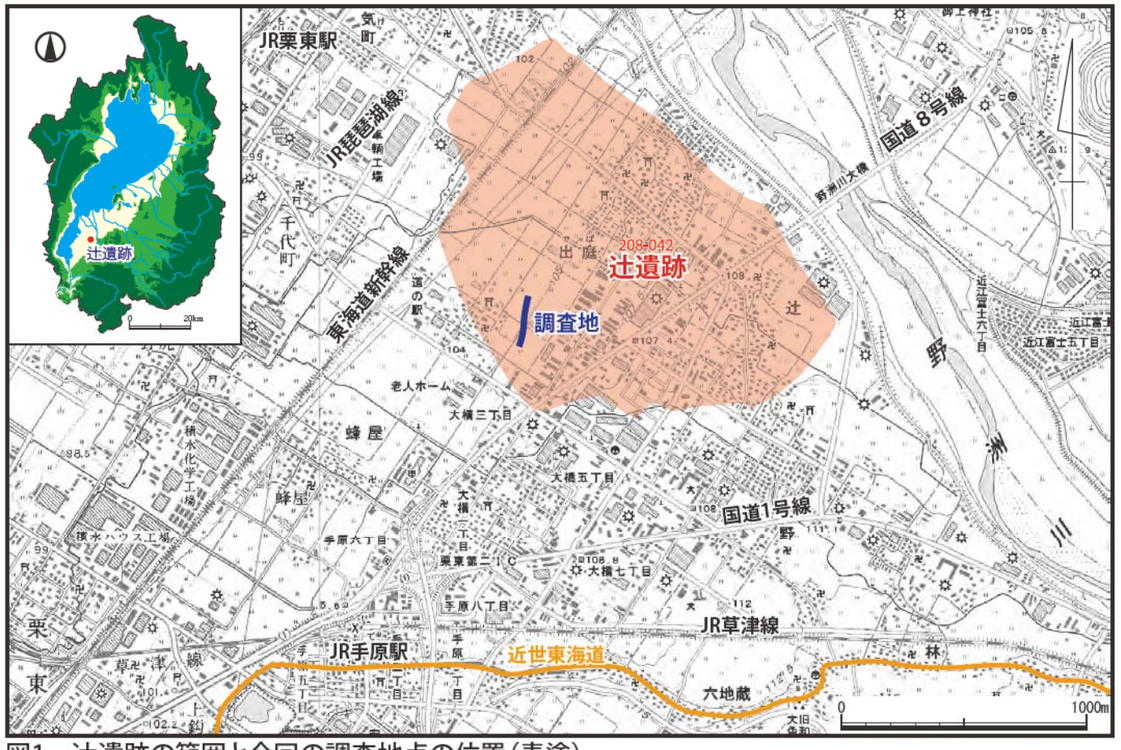

図1　辻遺跡の範囲と今回の調査地点の位置（青塗）

出土した遺物

縄文土器　P-2区の谷状地形の肩部からは、縄文時代晩期頃（約3000～2300年前）の縄文土器が出土しています。明確な遺構（いこう）に伴う遺物ではありませんでしたが、その周囲からは、遠方から運ばれてきたサヌカイト製の石のやじりや石器を打ち割った際に生じた破片が複数出土しています。

古墳時代前期の土器と管玉　P-2区の3世紀後半頃の竪穴建物からは大量の土器が出土しました。大きな壺や甕（煮炊きに使われた器）や高坏（盛り付け用の器）が複数個体あるようです。

また、この建物の中からは管玉（くだたま）（写真左上）という装飾品も出土しています。これは緑色凝灰岩（りょくしょくぎょうかいがん）という北陸地方でおもに産出する石で作られています

古墳時代後期頃の須恵器（すえき）（ハソウ）　P-5区の土坑（どこう）の底付近からは、6世紀頃のハソウとよばれる須恵器が出土しています。丸い胴体の側面に穴一つ穿（うが）たれています。この穴は注（そそ）ぎ口と考えられ、何らかの液体を注ぐ容器であったと考えられます。表面には、文様が施され、丁寧な作りで仕上げられています。

平安時代末から鎌倉時代初め頃の土師器皿（はじきさら）　P-1区の12世紀頃の掘立柱建物を構成する柱穴のいくつかから、土師器皿が出土しています。それらは穴の途中で出土しており、建物が廃棄されたさいに、柱を抜き取り、穴の中に意図的を据えていたと考えます。

まとめ

以上が現在までの調査の状況です。その要点を箇条書きに記して、まとめとします。

①縄文時代晩期頃の土器・石器が出土したことから、調査地付近に縄文人が活動していたことがわかりました。

②古墳時代前期頃には、調査地の南寄りにムラが営まれ、付近にお墓も築造されていたことがわかりました

③古墳時代後期から奈良時代頃には、調査地の中央付近に存在した谷状地形の縁辺やその北側の微高地にかけて、東西方向の用水路が何条も掘られ、下流一帯が水田として開発されていたことがわかりました。

④その後、谷状地形は次第に埋まってしまい、平安時代末から鎌倉時代頃には、その上に掘立柱建物からなる集落が営まれたことがわかりました。

このように、今回の調査地では、古くは縄文時代から続く、各時代に先人達が営んだ生活の一端を垣間見ることができました。調査はこれからも続きますが、さらにこの地域の歴史を明らかにしていきたいと考えています。引き続きご協力のほどをお願いします。

発掘調査の状況

今年度の調査では、大きな谷状の自然地形と古墳時代前期から奈良時代にかけて形成された複数の溝が確認されたほか、その両岸に古墳時代前期頃の竪穴建物や方形周溝墓がつくられていたことがわかってきました。

溝は東から西へ向かって流れるように掘られていました。なかには深さ1.5mを超える大規模なものもあり、何度も掘り直して利用していたようで、用水路として機能していたと考えています。

谷状地形はその後次第に埋没し、平安時代から鎌倉時代にはすっかり埋まってしまったようで、その後に大きな掘立柱建物が建てられており、集落が形成されました。

P-1区 方形周溝墓と掘立柱建物

P-2区 竪穴建物から大量の土器が出土

見つかった遺構の図面を作成しています

竪穴建物を検出しています
白線で四角く囲った範囲が建物です。

図2　P地区遺構配置図（S=1:500）

P-3区 掘立柱建物検出状況

P-4区 ココの溝は深かった！　約1.7mありました。

P-5区 東西方向にのびる溝